TEN

TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

Vol.37
FALL 2017

特集

TENリニューアル記念特集

新学習指導要領の核心

巻頭エッセイ

表紙裏　一歩一歩　篠田ちひろ

特集

01　新学習指導要領 中学校外国語の全体像とキーワード　根岸雅史
04　5つの領域別目標と，実現へ向けた活動のポイント　根岸雅史・津久井貴之
09　ここがポイント! 次の小学校英語　酒井英樹

連載

10　Essay English Over Yonder　Matthew Miller
10　AROUND THE WORLD オーストラリア先住民の世界から[3]　松山利夫
11　単語の文化的意味94 voice　森住衛
12　評価クリニック「評価クリニック」の連載を終えるにあたり　根岸雅史

SANSEIDO

一歩一歩

篠田ちひろ

1984年山口県生まれ。
大学卒業後カンボジアへ渡り，2009年現地の伝統文化とハーブを使用したスパ製品のブランド，クルクメールボタニカル社を立ち上げる。2015年にはスパクメールを開業。
2012年「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」に選出される。

日本語，英語，カンボジア語の3ヶ国語をぐちゃぐちゃに混ぜながら，インドシナ半島の小さな国で忙しく生活をしているなんて，10年前は全く想像もしていませんでした。

山口県の日本海を望む田舎で育ち，親の勧めで英会話教室に通うも，英語は全く話せるようにならぬまま高校を卒業。しかし，親元を離れ東京の大学へ進学した途端，海外や知らない世界に対する漠然とした好奇心が芽生え，

「今までの自分は『井の中の蛙大海を知らず』。もっと世界を見てみたい」

と，長期休みのたびに海外へ貧乏旅に出かけました。

アジア諸国・東西ヨーロッパ・北アフリカを旅し，自分の知らない世界・生き方・価値観に出会う度にワクワク，海外への憧れはさらに強くなる一方。また，旅先で出会った人々と話をしたい・気持ちを共有したいという強いモチベーションに支えられて，英語を「聞く」「話す」力が飛躍的に向上していったように思います。

大学時代，岩本悠著『流学日記』（文芸社，2003年）という1冊の本に出会い，感化されて国際ボランティアの活動にのめりこみ，ついには就職の内定を辞退して，卒業後はカンボジアへ行くことを決意。想いだけは一丁前，経験も実績もなかった23歳の私の目標を理解してくれる人はいないだろうと思い，多くを語らず日本を飛び出しました。

「地元の素材を使ってものづくりをしたい。貧困層の教育を受けていない若者でも働ける場を作りたい」

これがカンボジアへ渡った際の私の目標。なんとざっくりとした，今思うと「そりゃ誰も理解してくれるわけないでしょう」な無謀な計画。いや，計画すらなかった，典型的「想いだけはあります！」な若者でした。

僻地には地雷が残り，教育が行き届かず母国語が読み書きできない若い人たちが未だたくさんいるカンボジア。社会人経験も，海外生活経験も，カンボジアへのコネクションも，社長経験も，無い・無い・無いだらけ。ですが，持ち前のポジティブ・シンキングと好奇心，思いついたら即行動しなければ気がすまない性格だけを頼りに，まずは就職先を見つけました。そして2009年，カンボジアで生活している中で出逢った現地の伝統医療とハーブの文化にインスピレーションを得て，カンボジアの地でクルクメールボタニカル社を設立，半年間の製品開発を経て，2010年現地のハーブや塩を使用したバス製品の販売を開始しました。

それからの日々は，目の前の問題解決に必死になって走り続けてきたら，あっという間に7年が過ぎてしまいました。

しかし，いま少し立ち止まって思い返せば，日々の小さな決断，小さな一歩が積もり積もって今に繋がっているのだと感じます。「今の点と将来の点がつながると信じなければならない」，スティーブ・ジョブズの有名なスピーチが頭をよぎります。10年前，まさか自分がこんなことをしながら33歳を迎えるとは夢にも思っていませんでしたが，人生何があるか分かりませんね。これからも，日々の一歩一歩を大切に，一度しかない人生を楽しみたいと思います。

創業時に，現地スタッフと

カンボジアのハーブの文化を詰め込んだ製品

カンボジアの若者に笑顔が溢れる

特集 新学習指導要領の核心

2017年3月に新学習指導要領が公示された。
東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年から小学校で，
翌2021年から中学校で，それぞれ全面実施され，
2030年頃まで児童・生徒の学びを支える柱となる。
今回の学習指導要領改訂では，生徒の学力や現状の課題，将来の予見を踏まえ，
「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し，「何を学ぶか」だけでなく，
「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」といった視点から
学習指導要領等の枠組みの見直しが行われた。

特集では，新学習指導要領 中学校外国語について
根岸雅史先生・津久井貴之先生・酒井英樹先生に，改訂の「核心」を解説していただく。

特集❶ 新学習指導要領 中学校外国語の全体像とキーワード……根岸雅史
特集❷ 5つの領域別の目標と，実現へ向けた活動のポイント……根岸雅史・津久井貴之
特集❸ ここがポイント! 次の小学校英語……酒井英樹

特集 1

新学習指導要領 中学校外国語の 全体像とキーワード

根岸雅史（東京外国語大学）

「外国語」の全体像

これまでにならい，今回も小学校と中学校の学習指導要領が改訂された。しかし，今回の「外国語」は，単なる「改訂」と言うには，あまりにも大きな「改訂」である。小学校の学習指導要領は，「外国語」が教科として必修になるのだから，変化は誰の目にも明らかである。それに対して，中学校の学習指導要領の「改訂」は，くせ者である。中学校の「外国語」は，これまでも教科としてすでに存在していたので，単なる「改訂」に見えてしまう。

しかし，小学校で「外国語」が教科化したために，中学校での「外国語」は，初習の教科ではなくなるのだ。「外国語」の指導が前倒しになるために，中学校では新たな指導が求められることになる。かなりの言語活動は小学校で体験済みで，基礎的な言語材料にも出会うことになっている。しかも，小学校では，「書くこと」は書き写し程度にとどめるとあることから，中学の教師としては，頭の切り替えは容易ではない。単語だけで考えても，聞いたり話したりしたことのある単語は，700語近くあるかもしれないが，それらは文字で見たことがあるとは限らず，ましてやお手本なしで書けるわけでもないということは，頭では理解できても，体感的には理解しがたいであろう。

実は，中学校学習指導要領の「外国語」の構造は，他教科と比べるとわかりにくい。この学習指導要領は，教科ごとに構成が異なっている。国語や数学などの教科は，「第2」の部分は，「各学年の目標及び内容」となっており，学年ごとに「目標」と「内容」が記述されている。それに対して，社会や理科は「各分野の目標及び内容」となっており，社会であれば，〔地理的分野〕や〔歴史的分野〕や〔公民的分野〕

のように，分野ごとに「目標」と「内容」が記述されている。「外国語」はというと，これらのどちらでもない。「外国語」は，「各言語の目標及び内容等」となっている。しかも，「各言語」といっても，「外国語においては，英語を履修させることを原則とすること。」とあり，実質は「英語」である。したがって「英語」の「目標及び内容等」が実質的な「外国語」の「目標及び内容等」となっている。そのために，下の図では，外国語の目標の下に，英語の目標が来るというやや不思議な構造になっている。

下の図を見ればわかるとおり，英語の目標には，「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」「書くこと」という，5つの領域別目標が示されている。これまでは，英語は「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」は4技能と呼んでいたが，全教科共通の「知識及び技能」という用語が学習指導要領に入ったために，今回の改訂から5領域と呼ぶようになっている。また，「話すこと」は，「話すこと［やり取り］」と「話すこと［発表］」に分けられるようになった。これは，CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）におけるSpoken InteractionとSpoken Productionに対応している。前者は，会話やディスカッションのように，話者が頻繁に交代するタイプで，後者は，1人の話者が一定の時間1人で話し続けるタイプである。

この5領域を「聞くこと」「読むこと」の「受容技能」と「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」「書くこと」の「発表技能」のそれぞれの観点から見てみる。

「聞くこと」と「読むこと」は，「必要な情報を聞き（読み）取ること」，「概要を捉えること」「要点を捉えること」から成り立っている。それぞれは，「部分把握」「全体理解」，そして，「全体における重要な部分の把握」となっている。

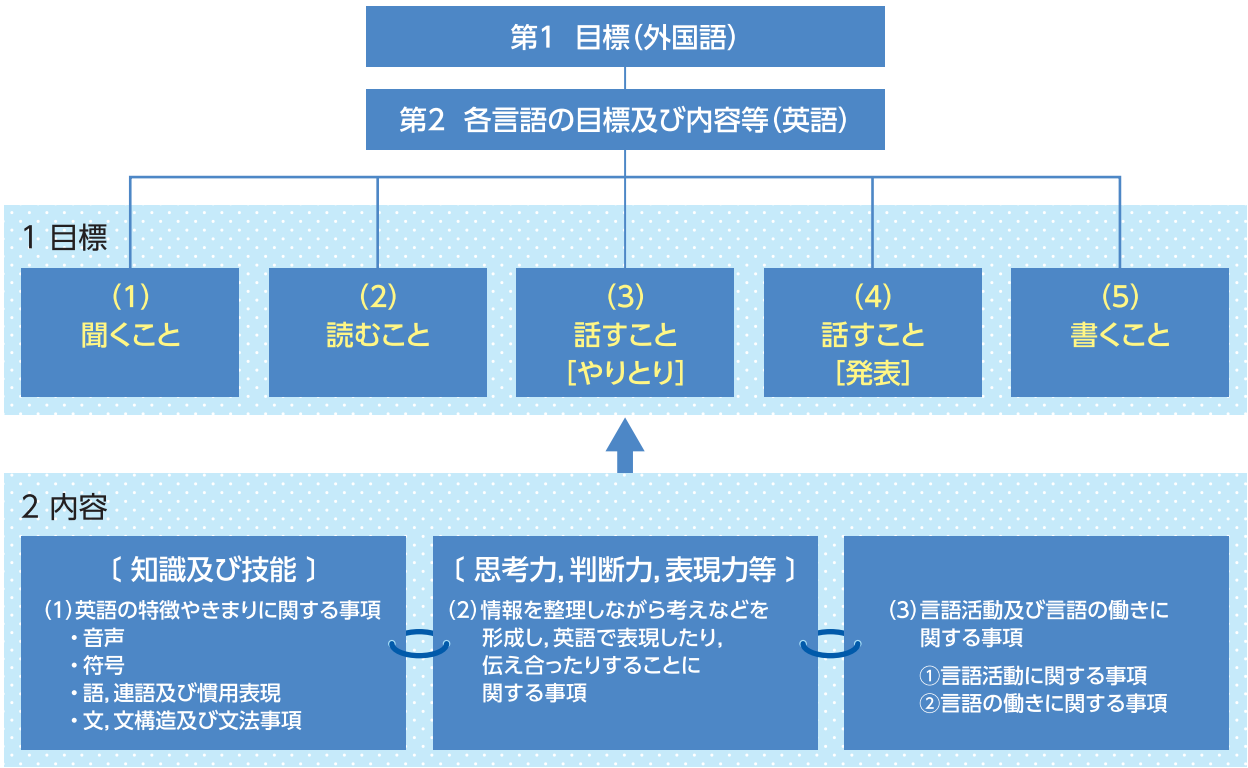
KEYWORD

新学習指導要領を読み解くキーワード①

語彙数の増加

現行の学習指導要領では，中学校での指導語彙は1200語程度とされている。これが，1600～1800語に増える。しかし，これは変化の一側面に過ぎない。小学校の教科化に伴い，600～700語が指導済みとなっている。このため，これまでは中学卒業時での語彙サイズは純粋に1200語であったのが，新学習指導要領では，2200～2500語となるということだ。サイズだけで言えば倍近くあり，1200～2500語という未知のレンジの単語が含まれる。その上，小学校での指導では，600～700語は既出とはいえ，読んだり書いたり自由にできるような単語とはなっていないのである。いわゆる新出語の出現頻度は極めて高くなるとすれば，受容語彙と発信語彙の区別や，聞いてわかればいい単語と書けなければいけない単語などという区別をすることが重要である。

図



これに対して,「話すこと[やり取り]」「話すこと［発表］」「書くこと」は,「即興で話すこと／正確に書くこと」「事実や自分の考え，気持ちなどを整理し話す（書く）こと」,「聞いたり読んだりしたことについて話す（書く）こと」から成っている。「話すこと［やり取り］」であっても,「話すこと［発表］」であっても，目につくのは,「即興で話すこと」が挙げられているという点だろう。

「2 内容」に示される，言語材料に関する〔知識及び技能〕と〔思考力，判断力，表現力等〕と「言語活動及び言語の働きに関する事項」を「3 指導計画の作成と内容の取り扱い」に示される指導により,「1 目標」を実現するという構造になっている。

「目標」・「内容」について

学習指導要領の「第1 目標」では外国語の目標が示され，言語活動を通して，コミュニケーションを図る「資質・能力」を育成することを目指すとある。このことは，コミュニケーションは，その能力だけでなく，ここで言う「資質・能力」により，実現するということを意味する。その「資質・能力」は，（1）～（3）の3つから成り立っている。

（1）では,「外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなど」の理解とこれらの知識の実際のコミュニケーション場面での活用を身に付けるようにする，としている。これがいわゆる外国語の「知識・技能」に当たる。

（2）のポイントは,「コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて」という部分である。（1）で既に「実際のコミュニケーションにおいて」と言っているが，ここでは,「目的や場面，状況」に応じて活用するということである。単なる「実際のコミュニケーション場面での活用」ではなく,「目的や場面，状況」に応じて，判断してとなっているが，これが「思考力・判断力・表現力」に当たる。

（3）では，コミュニケーションの相手に配慮しながら，主体的にコミュニケーションを図ることを目指している。これが「学びに向かう力・人間性等」に当たる。

新しい学習指導要領では，目標がいわゆるCAN-DOリスト的に書かれている。といっても，実際は「～できるようにする」という教師目線のものとなっている。英語科では，他教科に先行して，CAN-DOリストの作成と利用が文部科学省主導でスタートしていたので，国としての到達目標が示された形だ。

また，今回の改訂では，新しい学力観から導かれる「思考力・判断力・表現力」という概念が入ったが，やや理解が難しいかもしれない。一般に「思考力・判断力・表現力」といわれてイメージされるであろうものと，この学習指導要領において言われているものは，異なっているかもしれない。新学習指導要領では,「コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて」コミュニケーションを図ることが,「思考力・判断力・表現力」を発揮していることだとされるのだ。しかし，外国語の「知識・技能」における「技能」の発揮では,「コミュニケーションを行う目的や場面，状況」が示されていることも珍しくはないだろう。これに対して,「思考力・判断力・表現力」の枠での指導では，コミュニケーションを行う目的や場面，状況に「応じて」コミュニケーションを図っているかが肝なのである。つまり，目的や場面，状況に応じて，どのようなコミュニケーションを図るかを判断するプロセスが含まれるということだ。

新学習指導要領を読み解くキーワード ② 新出文法

新学習指導要領では，語彙数の増加がとにかく目に付くが，文法事項にはそれほど際立った増加はない。新規に加わったのは，仮定法，現在完了進行形，（使役構文などの）動詞の原形である。これまで仮定法や現在完了進行形は，学習指導要領の縛りのために使えなかったが，それが解消した形だ。ただし，仮定法は，ほとんどの英語教師にとっては，中学での指導は未経験で，仮定法の概念を再確認し，その指導法も新たに確立する必要があるだろう。現在完了進行形は，これまで無理して現在完了の継続用法で代用してきた部分が自然に使えるようにはなるが，この2つの形式が含まれることで，その区別をしなければならなくなる。

新学習指導要領を読み解くキーワード ③ 授業は英語で行う

「授業は英語で行うことを基本とする」という言葉は，前回の改訂で高等学校学習指導要領に入ったものだ。この言葉は，当初英語の授業をすべて英語で教えると捉えられたが，その真の目的は,「生徒が英語に触れる機会を充実する」ということと「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」ということとされている。こういうことであるから，文法の説明などを苦労して英語で説明するようなことを意味していない。逆に，音読やシャドーイングや機械的なドリルの指示を英語で行っているからと言って，それは授業が「コミュニケーションの場面」となっていることを意味していない。ポイントは，言語活動を中心にした授業デザインへの改革と共に，英語での授業を行うことだ。

特集2

5つの領域別目標と，実現へ向けた活動のポイント

新学習指導要領で，5つの領域別の目標（聞くこと・読むこと・話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くこと）が明示されました。ここでは，5つの領域別の目標のポイントと，その実現へ向けた言語活動について解説します。

聞くこと

根岸雅史
（東京外国語大学）

指導要領文言

［目標］

ア はっきりと話されれば,日常的な話題について,必要な情報を聞き取ることができるようにする。

イ はっきりと話されれば,日常的な話題について,話の概要を捉えることができるようにする。

ウ はっきりと話されれば,社会的な話題について,短い説明の要点を捉えることができるようにする。

アについて

この目標は，「日常的な話題」について，話される全てではなく，聞き手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などの「必要な情報」を聞き取る力を身に付けさせることを示している。「はっきりと話されれば」とは，明瞭で，自然な速度に近い音声で話されることを示している。この目標での「日常的な話題」とは，生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるものだ。「必要な情報」については，**話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく，目的や自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を把握すること**が大切である。

活動のポイント

「自分にとって必要な情報を選んで聞く」ことに慣れさせる工夫を

- 同じ「店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンス」でも，目的によって聞き方は異なってくる。駅のアナウンスであれば，これから電車でどこかに行こうとしている人にとっては，自分に関係のある電車の運行情報を選んで聞くのが自然である。それに対して，店でのアナウンスであれば，どんな内容が放送されるかはわかっていないため，まずは自分に関係あるトピックかを聞き分け，関係があればそこから必要な情報を聞き取るという活動となるだろう。

イについて

この目標は，「日常的な話題」について，話されること全体の大まかな内容を把握する力を身に付けさせることを示している。「日常的な話題」や「はっきりと話されれば」の説明はアと同様である。「話の概要を捉える」とは，一つの話題に沿って話されるものなど，内容に一貫性のある英語を始めから最後まで聞き，**一語一語や一文一文の意味など特定の部分にとらわれることなく，全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えること**である。

活動のポイント

「話の概要を聞くのにふさわしいテキストの全体理解」のための指導・支援を

- この活動では，「必要な情報を聞き取る活動」と違って，全体を理解する活動とする必要がある。そのためには，ピンポイントの情報だけ聞き取るだけではすまないようなテキストを聞かせなければならない。このようなテキストとは，物語や映画のあらすじや身近に起こった出来事についての話などのことである。
- これらのテキストに対するタスクは，物語の聞き取りであれば，それぞれの場面の状況を表す絵を話の展開の順に並べ替えるものや，映画のあらすじを聞いて，紹介のポスターに載せる短いあらすじを書くなどである。

ウについて

この目標は，「社会的な話題」に関する説明を聞き，特に中心となる事柄などの話の大切な部分を捉える力を身に付けさせることを示している。「はっきりと話されれば」の説明はアと同様であるが，「社会的な話題」とは，社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことである。ここでは，目標イのように話全体のあらましを把握するのではなく，「要点」，すなわち**話し手が伝えようとする最も重要なことは何であるかを判断して捉えること**が求められている。

活動のポイント

「説明の中の主要な点と周辺的情報」を区別させるための工夫を

- この活動は，２段階から成る。まず，短いがある程度の情報が入ったまとまりのある説明を聞かせて，全体としてどのようなことが話されているのかを理解する段階。そして，その中から話し手が伝えたい最も重要なことは何かを判断させる段階である。
- どのようなポイントが触れられているのか，説明を聞きながらメモをさせるなどして確認させ，その後で，それらがどのような関係にあったのかを考えさせる。主要な点と周辺的な情報を区別するなども重要である。

読むこと

根岸雅史
（東京外国語大学）

［目標］
ア 日常的な話題に関して，簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
イ 日常的な話題に関して，簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
ウ 社会的な話題に関して，簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

アについて

この目標は，「日常的な話題」について，読み手として，目的に応じて知りたいことや欲しい情報などの「必要な情報」を読み取る力を身に付けさせることを示している。「日常的な話題」とは，「聞くこと」でも触れたように，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるものである。「必要な情報」については，**書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく，目的に応じて，また自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を把握すること**が大切である。

活動のポイント

「自分にとって必要な情報を読み取る」ことに慣れさせる工夫を

- 「言語活動に関する事項」（イ）に示す「広告やパンフレット，予定表，手紙，電子メール」などの様々な文章を取り上げ，それぞれの文章タイプの特徴を考えさせる。
- その文章を読む目的を読み手である生徒に考えさせ，その目的によっては，文章のすべてを詳細に読む必要がないことを確認させる。その上で，目的に応じて，どんな情報を得る必要があるのか，また，そのためにどのように読むのかを意識させる。

イについて

この目標は，「日常的な話題」について，文章全体の大まかな内容を把握する力を身に付けさせることを示している。「日常的な話題」とは，アと同様である。ここでは，「概要を捉えること」が目標となっていることから，「短い文章」とはいえ，ある程度のまとまりのある文章を前提としている。その上で，「概要を捉える」とは，**特定の情報を読み取るのではなく，全体として何が書かれているのかを読み取ること**になる。

活動のポイント

「概要を捉えるのにふさわしいテキストの全体理解」のための指導・支援を

- 「概要を捉える」指導を行うためには，まず，生徒に読ませる文章が物語や何かの出来事の報告のように，全体として，あらすじを理解する必要がある種類の文章を用いる必要がある。
- 活動に当たっては，一語一語や一文一文の意味の理解だけでなく，常に全体を意識させることが重要である。
- そのためには，最初から最後まで読ませることが重要である。その際，物語であれば，登場人物の行動や心情の変化に注目させるとよいだろう。また，最初から最後まで読むということを諦めないように，単語や表現などを側注にして出しておくなどして，全体のあらすじなどを取ることから注意がそがれないような工夫が必要である。

ウについて

この目標では，「社会的な話題」に関する文章を読み，特に中心となる事柄などの文章の大切な部分を捉える力を身に付けさせることを示している。この目標での「社会的な話題」とは，社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことである。「要点を捉える」とは，例えば説明文などのまとまりのある文章を初めから最後まで読み，**含まれている複数の情報の中から，書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉えること**である。

活動のポイント

「文章の中の主要な点と周辺的情報」を区別させるための工夫を

- 「要点を捉える」指導を行うためには，ある程度の分量でまとまりのある文章を用いる必要がある。
- イと同様，文章全体を読み通し，文章全体の構成を意識しながら読ませることが重要である。
- そのためには，文章から複数の情報を取り出し，それらの関係がどうなっているのか考えさせ，主要な点と周辺的情報を区別させ，どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断させることに留意する必要がある。

話すこと［やり取り］

津久井貴之
（お茶の水女子大学附属高等学校）

［目標］
ア 関心のある事柄について,簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
イ 日常的な話題について,事実や自分の考え,気持ちなどを整理し,簡単な語句や文を用いて伝えたり,相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて,考えたことや感じたこと,その理由などを,簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

アについて

この目標からは，今まで以上に話し手と聞き手の**「双方向の」コミュニケーション**を大切にし，言語活動の中で「やり取り」を増やしていく授業が想定されます。また，身の回りのことで生徒が関心を持っている話題であれば，その際に「即興で」伝え合う活動をしていくことが求められています。したがって，例えばペアで「書いて覚えて暗記して発表する」活動は，ここで強調されている言語活動にはなりません。

活動のポイント

- 原稿を書かずに「その場で」お互いに質問したり情報を伝え合ったりできるよう，生徒の関心のある話題や，スピーチ，ディスカッションなどで取り上げた既習の内容をトピックとして選ぶ。
- ヒントとなるメモを見ながら話す，短時間で話す内容をブレインストーミングするなど，段階的な支援や指導を取り入れて，「即興的なやり取り」に慣れさせたい。
- 会話の切り出し方，続け方，相手の応答に関連する質問の仕方，会話の順番の取り方などの方略（ストラテジー）を指導する。
- モデルを視聴して，そこで使われている適切な英語表現やストラテジーを学習したり，ペアでのやり取りを動画や音声に記録し振り返ったりする（モニターする）活動を取り入れる。

イについて

ある程度の時間で伝えようとする情報や考え，気持ちを整理することが求められています。また，そのようにして伝えられた内容について，**聞き手からの質問に応じたりするところまでを一連のコミュニケーションとして，言語活動を行う**指導や活動の流れを考えていきましょう。また，事実や自分の考え，気持ちなどを「整理する」という学習過程は，聞き手を意識した表現や伝えたい内容を効果的に伝えるための構成の工夫，複数の情報や内容の比較・精選など，英語における「思考力・判断力・表現力」を育てるために重要になります。

活動のポイント

- 伝えたい情報のアウトラインを箇条書きにしたり，キーワードをメモに書いてわかりやすく図や矢印でつなげたりするなど，情報や考え，気持ちを整理するためのツールを段階的・継続的に指導する。
- 聞き手はメモを取ったり質問したいことを考えたりしながら聞き，実際に質問したり，話し手はそれに応じたりする双方向のコミュニケーションを行うことができるようにする。
- 一度伝えて終わりにするのではなく，より効果的に伝えるにはどうしたらよいか，ペアやグループで振り返ったり，メモ書きを校正したり，構成や表現を考え直したりする活動を取り入れる。

ウについて

技能統合型の活動を想定した目標です。「社会的な話題」について取り上げることにより，生徒が共通の話題として**聞いたり読んだりしたものの中から，お互いの気持ちや考え，気づいたことやアイデア，提案などを伝え合うことができるようにする**ことが求められます。他教科の学習や習得した知識なども生かしながら，社会の今日的な話題についても取り上げ，賛否やその理由について簡潔に伝え合い，互いの意見や考えの違いを表現し合い聞き合うことの楽しさに触れさせたいものです。

活動のポイント

- 生徒それぞれの意見やこだわり，アイデアなど多様なものの見方・考え方が表現できる話題を取り上げる。その際，新聞記事や図表，電子メール，映像資料などを用いて生徒の興味・関心を高められるよう工夫する。
- 賛否や理由，例示，反論するための英語表現を学習するだけでなく，日頃から簡単な意見を述べた時などに理由付けをするよう，教師が働きかけるようにする。
- 他教科の学習や知識を生かした教材を工夫するとともに，系統的・継続的に技能統合型の活動（やり取り）を行う。
- 表現したいことをできるだけ平易な表現で表すにはどうしたらよいか，やり取りを行った後に振り返らせたり，ライティングで再度表現させたりして必要な英語表現に習熟させたい。

話すこと［発表］

津久井貴之
（お茶の水女子大学附属高等学校）

［目標］
ア 関心のある事柄について,簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。
イ 日常的な話題について,事実や自分の考え,気持ちなどを整理し,簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて,考えたことや感じたこと,その理由などを,簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

アについて

小学校の目標である「日常生活に関する身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと」および「伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと」に加えて，「即興で」行うというところが中学校で新しく加わった部分です。したがって，**小学校で学習した表現や技能を用いながらその場で伝えることができるようにする**ことが大切です。小学校で培ってきた表現することへの積極的な姿勢をさらに伸ばせるよう，流暢さ(fluency)から正確さ(accuracy)への流れを意識して，即興で話す場面で最初から正確さを求めすぎないようにしましょう。

活動のポイント

- ペアやグループでよりよい説明の仕方や表現について確認する機会を作ったり，自分の話す様子を録画・録音したものを振り返らせたりして，自分で英語の表現や話し方の改善点がわかるようにする。
- ネイティブ・スピーカーの説明をモデルとして聞き，効果的な説明の仕方を確認した後，類似した話題を取り上げて，もう一度口頭で説明する活動に取り組むなどの工夫をする。
- 実物や写真，タブレット端末などの補助資料を用いて，生徒が楽しみながら主体的に英語で話す活動に取り組めるように工夫する。また，教師自身が楽しみながら活動に参加し，生徒にモデルを示せるようにする。

イについて

生徒の日々の生活に関わる話題について，**事実や生徒自身の考え，気持ちなどを整理して，まとまりのある内容として発表する**ことができる力を身につけさせることが求められます。「整理し」て話すことになりますので，話す内容を大まかな流れにしてコミュニケーションの見通しを立てることが必要になります。また，「まとまりのある内容」を話すことが小学校の目標にはない1つのポイントとなります。

活動のポイント

- スピーチをさせる際に，その目的を明確にしたり，ルーブリックなどで目標をあらかじめ提示したりする。
- 話し手として伝えたい内容や順序，聞き手にわかりやすい展開や構成などを考えたり，事実と考えを分けて整理したり，その結果をペアやグループで話し合ったりするなどの場面を設定する。
- ペアでスピーチの練習をする際などに，聞き手にわかりやすい語句や表現を調べたり考えさせたりする活動を取り入れて，聞き手に配慮したスピーチになるようにする。
- アイコンタクトや姿勢，表情，間の取り方などのノンバーバルな手段についても指導する。

ウについて

「話すこと［発表］」における技能統合型の活動を念頭に置いた目標です。「関心のある事柄」や「日常的な話題」から「社会的な話題」へと取り上げる内容も広がりや深まりが求められます。社会の様々な今日的課題から，例えば平和や人権，環境問題を扱った話題など，生徒の実生活や興味・関心とのつながりを持たせながら，様々な音声や文字媒体を使って**聞いたり読ませたりすることで，生徒なりに感じたことや考えたことを表現できるよう**にしましょう。

活動のポイント

- 発表の場面や状況・目的を明確にし，どんな点を意識して発表したらよいかがわかるように活動の目標や評価の観点をあらかじめ示す。
- メモを作って発表して終わりにするのではなく，メモを校正したり，構成を考え直したり，ペアで評価し合ったりしてさらによい発表ができるような機会を設ける。
- 口頭で要約する活動の際には，ジグソー学習を取り入れたり，興味・関心に応じて焦点を当てる情報を変えさせたりするなど，聞き手が聞く必然性が生まれるような工夫をする。

書くこと

津久井貴之
（お茶の水女子大学附属高等学校）

［目標］
ア 関心のある事柄について,簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。
イ 日常的な話題について,事実や自分の考え,気持ちなどを整理し,簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて,考えたことや感じたこと,その理由などを,簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

アについて

小学校を含めた**これまでの英語学習で扱った語句や文を用いて書けるように指導や支援をする**必要があります。スポーツ，音楽，映画，休日の計画や日常の出来事など，生徒が共通して関心を持っている「関心のある事柄」を取り上げ，言語活動を通して使いながら**正しく表現できるようにする**学習過程を大切にしましょう。

活動のポイント

- 書く活動を単独で行うのではなく，ペアやグループで口頭で伝える言語活動を行った後に，振り返りも兼ねてその内容を書いてまとめたり，うまく言えなかった表現を調べて書き直したりする言語活動を行う。
- 「ALTを学校行事に招待するための手紙を書く」など，場面設定や書く目的を明確にする。
- 特に中学１年では，小学校で音声を中心に慣れ親しんだ基礎的な既習事項について，類似した活動場面を設定し，再度文構造や文法事項の視点から語順を意識して「正しく書く」ことにも焦点を当てる。

イについて

「まとまりのある文章を書く」ために，自分の考えや気持ちなどを記したメモや構想図などを用いて**情報や書きたい内容を整理し，文と文の順序や相互の関連に注意して文章を書く**ことが求められます。また，書きたい内容や情報にふさわしい文法事項や語彙の選択をすることで，既習事項の活用と定着を図ることも期待されます。

活動のポイント

- 気持ちや考えを表現する際にはその理由や根拠を含めて考えさせる。また，始めのうちはそのための時間を十分に確保する。
- 生徒が興味や関心を持ち，一人一人の違いやこだわりを表現できるような題材や話題を扱う。そのために，教師は日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にし，生徒が関心を持っていることや興味のある話題などを把握できるようにする。
- ブレインストーミングやメモ，原稿の作成や推敲など，まとまりのある文章を作り上げるまでのプロセスを経て，生徒が段階的に英文を書き上げていけるような指導計画や支援を考える。
- 手紙や旅行記，レポート，スピーチ原稿など，様々な形式や場面の英文を書く言語活動に取り組ませる。
- ペアやグループで英文を推敲したり，効果的な構成や展開を考えたりする活動を対話的な学びとして取り入れる。辞書の使い方を指導したり，日記や読書レポートなどの家庭学習の自主的な取り組みを促したりしたい。

ウについて

「聞いたり読んだりしたことについて」とは，環境，科学，平和，歴史など，より深い内容について**聞いたり読んだりして，考えたことや感じたことを理由や根拠を示しながら英語で書く**ことになります。他教科の学習で学んだ知識なども活用しながら，複数の領域を統合した活動を行うことが求められます。

活動のポイント

- 生徒自身の関心を高めたり日常生活との結びつきを感じたりできるよう，環境や人権問題など社会的な話題について英文を聞いたり読んだりする前後に，資料の提示や教師の発問，英語による導入などの支援を取り入れる。
- 他教科と連携し，既習の知識を生かしたり，扱う話題に関連した映像や資料を活用したりするなどして，内容のある英文を書くことができるよう工夫する。
- 全体に関わることとして，流暢さ(fluency)から正確さ(accuracy)という指導の大きな流れを意識し，生徒の書こうとする意欲を伸ばせるよう配慮すること，授業で行う活動と家庭学習のつながりを持たせること，書き上げた英文を鑑賞し合うなどの活動を取り入れる機会を持つことなどにも留意したい。

特集3

ここがポイント！次の小学校英語

酒井英樹（信州大学）

3・4年生で外国語活動が，5・6年生で外国語が教科として実施されることになりました。ここでは小学校英語に関する改訂のポイントを4つ紹介します。

時間数の増加

70時間から210時間へ

5・6年生で週1単位時間（2年間で70単位時間）外国語活動が実施されていましたが，改訂により中学年外国語活動は年間35単位時間，高学年外国語科は年間70単位時間実施されることになりました。英語に触れる総時間数が3倍の210単位時間になります。時間数の増加により小学校における学びは今まで以上に期待されます。小学校の学びをしっかりと見極めながら，中学校で指導することが重要です。

2技能から4技能（5領域）へ

「読むこと」「書くこと」の導入

高学年外国語科が教科化されたのは，総合的・系統的に指導するためです。総合的な指導とは，「聞くこと」や「話すこと」だけでなく，「読むこと」や「書くこと」を含めて指導することですが，そのために時間数の増加が必要であると考えられました。系統的な指導については，「活動型」での慣れ親しみの段階にとどまらず，領域別の目標を達成するためには言語材料や言語活動を系統的に配列し指導することが必要であると考えられました。

「読むこと」や「書くこと」はどの程度指導されてくるのでしょうか。領域別の目標を見ると，「読むこと」と「書くこと」については，英語の大文字・小文字を見て名称を発音できることと，文字の名称を聞き，何も見ずにその文字を書けることが求められていますが，それ以上の定着は求められていません。例えば，何も見ずに語句や文を書くことができるようになることは求められていません。例を見て書き写す活動は経験してきますが，例を見ずに語句や文を書けるようになるのは中学校段階です。小学校で行われている活動を引き継ぎながらも，その力を定着させていく指導が中学校において必要になります。

語の扱い

600～700語

高学年外国語科において「英語の特徴やきまりに関する事項として言語材料」が示されています。語については，中学年外国語活動で扱われたものを含む600 ～ 700語程度を扱うこととされています。「領域別の目標を達成するために必要となる語」を指導することとされていますので，身の回りや日常生活に関する身近で簡単な事柄を表す語句が扱われることになります。

留意すべきことは，理解に留めるものと，発表の際に活用できるものとがあることです。いわゆる受容語彙と発信語彙の違いを認めることが求められています。600 ～ 700語全てを話せたり書けたりするわけではありません。中学校において，小学校で扱った語を繰り返し活用する機会を与え，受容語彙であったものを発信語彙にしていく指導が必要です。

文及び文構造の扱い

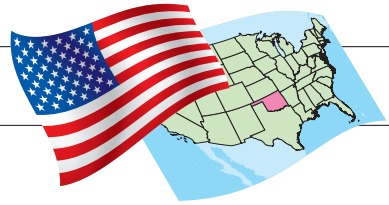
基本的な表現として

高学年外国語科の「文及び文構造」では，助動詞（can, doなど），代名詞（I, you, he, sheなど），動名詞，過去形が扱われることが示されています。ここで注意したいのは，小学校では「文法」と書かれていない点です。これは，文法の仕組みを理解するのは，中学校になってからであるとされているからです。

過去形を例に取り挙げましょう。思い出を伝え合う場面で，I went to (　). I enjoyed (　).という表現を使って，ある児童がI went to Okinawa. I enjoyed swimming.と表現したとします。このとき児童は，基本的な表現として（つまり行き先や楽しんだことを伝えるためのまとまりのある表現として）過去形を使っています。「goの過去形はwentだ」「enjoyに–edをつけると過去形になる」ということを理解しているわけでないことに注意する必要があります。

Essay

English Over Yonder



Matthew Miller (Tokyo Woman's Christian University)

Linguists and language instructors recognize that there is not one "true" or "pure" English, but an assortment of Englishes spoken across the globe. In Oklahoma, my home state in the US, we speak our own flavor of English. There, you will hear the West Midland dialect or Inland Southern American English. I grew up in Oklahoma City which is where the two dialects mix and exist alongside other languages such as Spanish, Vietnamese, and Cherokee.

The now rarely heard interjection "My lands!" is my favorite Oklahoma expression. My grandmother often used it whenever she was surprised or upset. I remember that once as a child, I thought she had said "My *lambs*!" and I responded, "I didn't know you had any lambs, Grandma." It was several years before I realized why all the adults in the room were laughing at me that day.

Some other typical Oklahoma sayings include the following:

Howdy = a greeting (a contraction of "how do you do")

Over yonder = a place further than "there"

For example, "I live here, he lives there, and she lives over yonder."

A coke = any sweet carbonated drink (not only Coca-Cola)

Slow-like = slowly

Pronunciation can vary depending on the part of the state and whether the speaker comes from a rural or urban area. However, generally, in Oklahoma English, the vowel [ɛ] is pronounced as [ɪ] thus making words like *pen* and *pin* or *hem* and *him* sound the same. Also, the "-to" or "-do" at the end of a word becomes "da" so *tomato* sounds more like *ta-me-da* and *mosquito* becomes *ma-ski-da*. Oklahomans will often drop the last "r" so *mirror* becomes *mirra*, but they sometimes add an "intrusive r" to words like *wash* so that it sounds like *worsh*.

These deviations from "Standard English" should not discourage English-language learners. Enjoy these differences as you would various flavors of ice cream. Oklahoma English may be inconsistent with what you learned in school, but Oklahomans are known for their friendliness and, luckily for you, a tendency to talk real *slow-like*.

AROUND THE WORLD 37

オーストラリア先住民の世界から［3］

松山利夫（平安女学院大学）

都市に生きる

オーストラリア先住民アボリジナルの人口は40数万人で，この国の総人口の2%ほどである。そのおよそ8割の人たちは，都市に暮らしている。シドニーやメルボルン，ブリスベンやアデレードといった南東部の州都をはじめ，大分水嶺山脈を西に越えた北西平原の地方都市ダボーやモリーなどでも生活している。

しかし，彼らには仕事がない。ほとんどの人が失業保険金などの社会保障金に頼って暮らしている。仕事を得た人も，多くが博物館や図書館といった公共施設の職員や，アボリジナルの絵画や彫刻などを販売するアボリジナル・アート・クラフト・センターの職員などである。中にはNPOを組織して，アボリジナルの高齢者の援助活動に従事したり，キリスト教会各派の宗教活動に携わったりする人もいる。

こうして都市に生きるアボリジナルは，長い植民地の歴史の過程で，生きるために入植者と混血を繰り返してきた。生活の場所を牧場や大農場に奪われたからである。そしてそれはいまも続いている。

アデレードに住むあるアボリジナルの家族は，こんな話を聞かせてくれた。

8人兄弟姉妹の長女は色白でイギリス人と結婚し，高級用品店のオーナーに納まっている。彼女は，家族以外のアボリジナルとは交際がない。色の浅黒い次女は旧ユーゴスラビアの移民と結婚し，アボリジナル高齢者向けのケータリングが仕事である。長男はフィリピン人と結婚し，州立の博物館に勤めている。アデレード平原に暮らしてきたアボリジナルの歴史を研究中である。次男と三女，それに三男はそれぞれ混血のアボリジナルと結婚したが，夫婦ともに失業中である。最後の2人の息子は独身で，四男は市の清掃のパートタイム，末子はプロ・フットボールチームに所属しているというが，ほとんど無給に近いらしい。

そんな兄弟姉妹の姓は一様ではない。むろん結婚した娘はそれぞれ夫の姓を名乗っている。息子は，末子を除いて，祖母が結婚したイギリス人の姓ウイリアムスを選択した。末子は，この姓の選択はオーストラリアの植民地史の正当化を意味しているとして，ローカル鉄道で働いた父がもつポーランドからの移民の姓を名乗ることにした。ほかの兄弟は，母が一時名乗ったこの姓を選択しなかった。それはポーランド語の音があまりにも英語からかけ離れ，発音が難しいからだという。彼らの暮らし方や姓の選択からは，家族の間でも「歴史」のとらえ方が微妙に異なることを示している。

この8人兄弟姉妹の母は，かつて子供たちにこう教えて育てたという。「白人に会っても話をするな。どうしても必要なときは，インド人だと言え」と。アボリジナルの英語はネイティブからすると訛りがあって，すぐにアボリジナルであることが知られてしまうからである。

都市でのアボリジナルの暮らしには，いまも葛藤が続いている。

Dr Negishi's Assessment Clinic
評価クリニック

「評価クリニック」の連載を終えるにあたり

根岸雅史　Negishi Masashi
（東京外国語大学）

最終回

1.連載から書籍へ

TEACHING ENGLISH NOW に連載してきた「評価クリニック」が，今回で終了する。この連載は2003年から2017年まで，なんと15年間続いた連載である。当初は，数年程度の連載だろうと思っていたことからすると，よく続いたと思う。

連載を終了するのは，*TEACHING ENGLISH NOW* が装丁を新たにすることもあるが，この連載をもとにしたテストの本が出版されたことにもよる。いわゆる一区切りがついたのだ。新刊のタイトルは，『テストが導く英語教育改革　「無責任なテスト」への処方箋』（三省堂）である。

副題から気づかれる方もおられるかもしれないが，新刊は『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る』（大修館書店）の共著者，というか，私の恩師の若林俊輔先生へのオマージュと言えるかもしれない。拙著の「はじめに」でも述べたが，『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る』では，数多くのテストの問題点を徹底的に指摘した。そして，何人もの教師から，あの本を読んでテストが作れなくなったという言葉を聞いた。そこで，新刊では，その問題点を克服するための「処方箋」を示すことを試みている。

2.連載の根底にあったもの

書籍の出版ともなると，校正のために何度も読み返すことになる。全体を何度も読み返すと，単独の原稿を書きためていたときには気づかなかったことに気づかされる。それは，3つの主張が形を変え繰り返されているということだ。

1つは，教科書と同じテキストを用いたリーディング・テストの問題点の指摘だ。リーディング・テストでは，英文を読んで理解できるかを見ている。しかしながら，ほとんどの定期試験では，授業中に読んだ既習の英文がテストで出題されている。既習の英文を用いたリーディング・テストでは，その英文を本当に読んで理解できるのか，既習の英文だから正解を得られるだけなのかは，わからない。

もう1つは，総合問題の問題点の指摘である。これも何度となく指摘されている。そして，最後の「結びにかえて」も「さよなら，総合問題」となっている。詳しくは，そこを読んでもらえばいいのだが，簡単にまとめると，ばらばらな言語知識を見ている総合問題の結果からは，何ができて何ができないのかはわからない。また，英文に下線が引かれたり，穴が開けられたりしている英文を解答しながら読むというのは，本来の読みのプロセスとはまったく異なるものだ。

さらに，話すことのパフォーマンス・テストが，スピーチの暗唱テストや会話文の暗唱テストとなっていることも問題視している。話すことの重要な要素に「即興性」があるが，暗唱テストは「即興性」とは無縁である。

自分は，なぜこうしたことをしつこく指摘していたのだろうか。自問自答してみると，学習者の本当の姿を知りたいという思いからではないか。生徒は，到達目標を達成しているのか，どこで躓いているのかについて本当に知りたいと思うからだ。既習の英文を用いたリーディング・テストでは，本当に読む能力があるのかどうかわからない。総合問題の出来からは，何ができて何ができていないのかわからない。暗唱テストでは，実際の会話の力はわからない。

授業を聞いていればできるテストは，確かに生徒をコントロールする道具としては，理想的だろう。このアプローチは，教師の指導に従順な生徒を生み，授業はしやすくなる。しかし，こうしたテストを続けることは，英語そのものの学習に結びつくとは限らない。また，学習や指導に潜む本当の問題点に目を向けないことになってしまう。生徒の本当の姿を知らなければ，学習や指導の改善にもつながらないだろう。これは，テストの作成者が指導を担う者と同一人物であるという，定期試験の特性から来ていると言える。

これに対して，民間の英語テストや国の英語力調査など，ある意味，容赦なく学習者の真の姿を白日の下にさらけ出してしまう。これらのテストでは，既習の英文が出たり，授業でやったようなスピーキング課題やライティング課題がそのまま出ていたりするわけではない。しかし，こうしたところからこそ，生徒の本当の姿を知り，そこから，授業のあり方を改善していくことができるのだ。

3.「王様は裸だ」と叫ぶ勇気

既習英文の利用も総合問題の利用も，

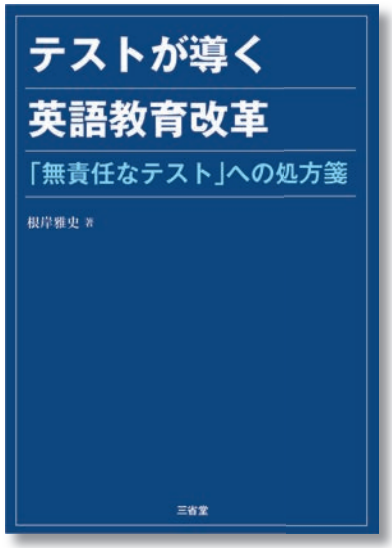
暗唱のスピーキング・テストも，改めて考えてみれば，真の英語力を知る方法として理にかなっていないのは明らかだ。大学の授業で，定期試験での既習英文の利用の話をしたときに，ヨーロッパからの留学生が，「自分の国では既習の英文を出すなんてことはあり得ません。だって，本当に読めているかどうかわからないじゃないですか」と言った。「そうだよね」と言ったものの，その主張のまっとうさに私は動揺してしまった。必要なのはまさに「王様は裸だ」と叫ぶ勇気だ。

教育における慣習は，長年にわたって形成されてきたものだ。それ故に，他から見ればあり得ないことも，その文脈の中では，当然のこととなっている。そして，そこから脱却することは，きわめて困難だ。しかし，これらの課題は，生徒のために解決していかなればならない。

テストが導く英語教育改革

「無責任なテスト」への処方箋

新刊



根岸雅史［著］
A５判　184頁　2,000円（本体）
ISBN 978-4-385-36356-1

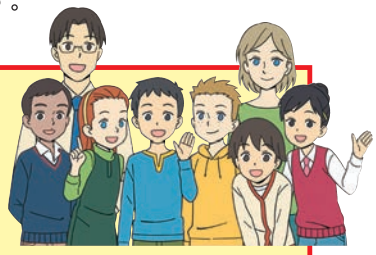
テストが変わらなければ、英語教育は変わらない。
言語テスト論に基づき、学校で行われるテストの問題点を的確に指摘し、具体例とともに改善策をわかりやすく解説。これからの英語教育と評価のあり方を提言する。

NEW CROWNデジタルテキストをお使いの先生方へ

教材の更新（アップデート）のお願い

NEW CROWN指導者用デジタルテキストは2016年4月の販売開始後，3回の教材アップデートを実施しております。（2016年7月/ 2017年3月/2017年8月）

最新の教材では機能改善や不具合の解消に対応しております。教材のアップデートがお済みでない場合には，是非アップデートをご実施いただきますようお願い申し上げます。



▶教材アップデート手順【オンラインの場合】

1. CoNETSビューアを起動します。
2. 「管理者」でログインをし，セットアップの画面を開きます。
3. 「教材管理」を選択し「ライセンス情報更新」ボタンをクリックします。
4. 【Windowsの場合】「教材をディスクから取得」のチェックを外します。
5. 教材の「インストール」ボタンをクリックして最新の教材をダウンロードします。

※教材のダウンロード対応時間帯は，大変恐縮ながら【平日の8:00～20:00】となります。
※手順の詳細は三省堂教科書・教材サイト（https://tb.sanseido-publ.co.jp/）にございます先生向けのサポートサイト「**三省堂プラス**」でもご確認いただけます。（「**三省堂プラス**」をはじめてご利用になる場合には会員登録が必要になります。）

オフラインでのインストールの為に最新版教材のDVD-ROMが必要な場合や，手順のお問合せなどがございましたら，下記のメールアドレスまでご連絡いただければ幸いです。

株式会社三省堂 デジタル教科書サポート　info-tbdt@sanseido-publ.co.jp

2020年、ついに小学校で外国語が教科化

教員を目指す学生はもちろん、現役教員の学び直しにも最適の1冊

小学校で英語を教えるための ミニマム・エッセンシャルズ

新刊

小学校外国語科内容論

酒井英樹（代表）・滝沢雄一・亘理陽一［編著］

A５判　208頁　1,900円（本体）　ISBN 978-4-385-36138-3

指導法だけで十分ですか？「小学校で育成を目指すコミュケーション能力って？」「子どもはことばをどう身に付けるの？」「音声、文字、語順って言われるけど英語はどのような特徴の言語？」「児童文学はどう扱ったらよい？」「異文化理解をどう進める？」これらの疑問に答える専門的知識を概説します。

教科書の導入から入試対策まで

中学校・高校ですぐに使える授業づくりのノウハウが詰まった一冊。

「教えない授業」から生まれた

英語教科書 魔法のレシピ

新刊

アクティブ・ラーニングかんたんガイド

山本崇雄［著］

B５判　120頁　1,900円（本体）　ISBN 978-4-385-36136-9

生徒が自ら学び始める授業を実践する著者が、
英語教科書を使ったアクティブ・ラーニングの活動例を紹介。

三省堂 教科書・教材サイト　http://tb.sanseido.co.jp

三省堂　〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14　TEL 03（3230）9411（編集）・9412（営業）

■大阪支社　〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3　TEL 06（6341）2177
■名古屋支社　〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31協和丸の内ビル2F　TEL 052（953）9211
■九州支社　〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1　TEL 092（531）1531・1532
■札幌営業所　〒060-0042 札幌市中央区大通西15丁目2-1ラスコム15ビル3F　TEL 011（616）8722

TEN TEACHING ENGLISH NOW Vol.37

2017年9月25日発行

○編集・発行人：北口克彦
○発行所：株式会社 三省堂　○印刷所：三省堂印刷株式会社

三省堂